

## 仏南東部 マルクール近郊核廃棄物処理センターの爆発事故について

2011年9月12日、マルクール近くのコドレ（仏南東部ガール県）に位置する低レベル放射性廃棄物処理センター（CENTRACO）で起こった爆発事故について、フランス原子力安全機関（ASN）は、同日12時30分（日本時間19時30分）に緊急時センターを立ち上げ、事故の情報収集・対応を行った。

CENTRACO は、EDF 関連会社 SOCODEI 所有の施設で、低レベル・超低レベルの放射性金属廃棄物を溶融し、または焼却可能な廃棄物は焼却して、低レベル放射性廃棄物の処理を行っている。

ASN は、15時20分、「金属廃棄物の溶融炉が建物の中で爆発したが、放射能は建物内に閉じ込められ、施設外への放射性物質の放出はない」と発表した。

ASN は、16時10分、事態収束を宣言し、緊急時センターを停止した。

ASN による、CENTRACO 核廃棄物処理センターの爆発事故の概要は以下の通り。

- ・ 低レベル放射性廃棄物処理センターにおいて、放射性金属廃棄物の溶融炉が爆発し、火災が起こったが、現地時間13時（日本時間20時）に鎮火した。
- ・ 爆発が起こった建物に損傷はなかった。
- ・ 作業員の1名が死亡し、4名が負傷、内1名は深い火傷を負っている。いずれも放射能汚染はなかった。
- ・ 事業者が建物の外を計測したが、放射能汚染の痕跡はない。
- ・ 本事象は、放射能放出を一切伴わず、市民の防護措置は必要ない。

ASN は、事故の原因を分析するため、今後綿密な調査を行う予定。

以上